



よくみえる!



医療・介護のはなし



FPS

セールス手帖社保険FPS研究所



制度編 介護のはなし

Ⅲ 介護にかかる費用と負担

介護には下記のような費用が発生し、その一部または全額を負担することになります。

公的介護保険の介護サービスを利用した場合、要介護度によって決まる支給限度額内の部分は、利用料の1割（第1号被保険者は、所得により2割または3割）を利用者が負担します^A。支給限度額を超えて介護サービスを利用した場合には、全額が自己負担になります^B。

介護が必要な状態になると生活全般にサポートが必要になり、介護保険でカバーできない生活支援サービス^Cを利用せざるを得ないこともあります。おむつや衛生用品の費用^Eもかかります。

高齢者住宅や介護施設で介護を受ける場合には、食費と居住費を負担します^D。自宅であっても要介護者用の食費はかかりますし、光熱費も通常より増えることがあります。

介護費用に加えて入院や通院、在宅医療などの医療費の負担もあります^F。在宅医療では、衛生用品等は実費負担となります。



A 介護サービスの利用料 (限度額内、一部負担)

▶▶ IV. 公的介護保険制度

P.20

+

B 介護サービスの利用料 (限度額を超えた分、全額負担)

+

C 生活支援サービス利用料

▶▶ V. その他の費用-1

P.23

+

D 食費・居住費 (家賃・管理費・水道光熱費など)

▶▶ V. その他の費用-2

P.24

+

E 雑費 (おむつ・衛生用品など)

▶▶ V. その他の費用-3

P.25

+

F 医療費

▶▶ II. 医療にかかる費用と負担

P.5

事例

①

肺がん

	全体	男性	女性
入院日数（平均）	34.9日	40.3日	23.0日
外来日数（平均）	12.0日	12.5日	11.1日

自己負担額（X）＋（Y）

69.4万円

健康保険対象医療費（平均額）

入院

222.5万円

外来

48.3万円

（Y）

※外来時の自己負担分 **48.3万円** × 30% = **14.5万円** を含む。

事例：Aさんは肺がんにより35日間入院しました。
その入院にかかった費用の概算は次の通りです。



医療費	1カ月目	2カ月目	合計
入院日数	20日	15日	
健康保険対象医療費	127.1万円	95.4万円	
3割自己負担額	38.1万円	28.6万円	㉠ 66.8万円

高額療養費	1カ月目	2カ月目	合計
自己負担限度額	9.0万円	8.7万円	
高額療養費	29.1万円	19.9万円	㉢ 49.0万円

その他費用	1カ月目	2カ月目	合計
食事自己負担	2.8万円（55回）	2.2万円（43回）	
室料（差額ベッド代）	13.4万円	10.1万円	
雑費	5.0万円	3.8万円	
小計	21.2万円	16.0万円	㉡ 37.2万円

自己負担合計（㉠－㉢＋㉡）**（X） 54.9万円**

参考：肺がんで入院している患者が併発している疾病の例

- ・本態性高血圧
- ・糖尿病
- ・胃潰瘍
- ・睡眠障害
- ・胃食道逆流症



ケース①

82 歳 女性 要介護 2 認知症で自宅介護

認知症のため食事作りや洗濯、掃除等の家事はできないものの、徘徊はない。会社員の子と同居し、平日は週 3 回認知症デイサービス、週 1 回整形外科に通いリハビリを受ける。デイサービスに行く前にはヘルパーさんが自宅に来て支度を手伝う。また通院時には介護タクシーを利用している。

1 週間のスケジュール

	月	火	水	木	金	土	日
午前	(訪問) 通所	リハビリ	(訪問) 通所		(訪問) 通所		
午後	通所		通所		通所		
夜間							

介護サービス（限度額 19 万 7,050 円／月）

通所介護	7,770円×12回+8,580円	101,820 円
身体介護（20 分以上 30 分未満）	2,440円×12回+7,130円	36,410 円
通所リハビリ	4,390円× 4回+1,510円	19,070 円
計		157,300 円
限度額内の自己負担（1 割）		15,730 円…㉑
限度額を超えたサービスの負担		0 円…㉒
介護タクシー	2,000 円× 2 × 4 回	16,000 円…㉓
食費 700 円× 12 回		8,400 円…㉔
雑費（おむつ代含む）		7,000 円…㉕
介護関係負担額		47,130 円（㉑～㉕）
医療費（脳外科、整形外科、薬代など）※		8,000 円（上限）
合 計		55,130 円

※所得区分：低所得Ⅱ



データ編

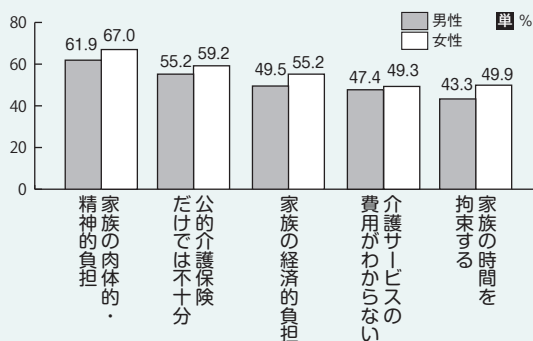
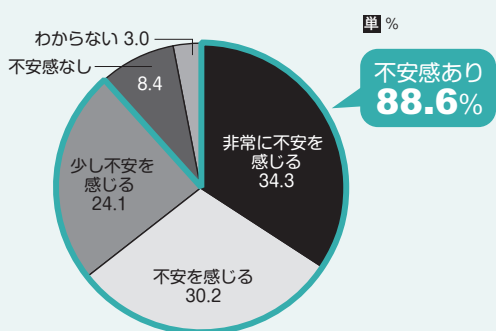
XI 介護に対する意識と実情



約9割の人が「不安感あり」

自分の介護に対して「非常に不安を感じる」と「不安を感じる」を合わせると全体の6割強で、「少し不安を感じる」人も合わせると、9割近くの人が不安感を持っていることになります。不安の内容は、「家族の肉体的・精神的負担」「公的介護保険だけでは不十分」「家族の経済的負担」などが上位にあがっています。

DATA 1 自分の介護に対する不安の有無と内容



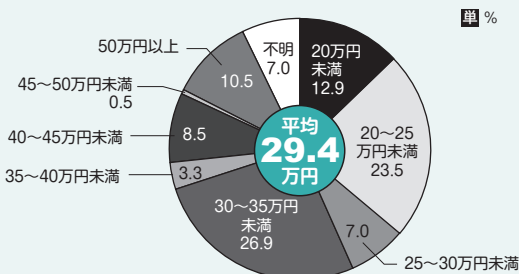
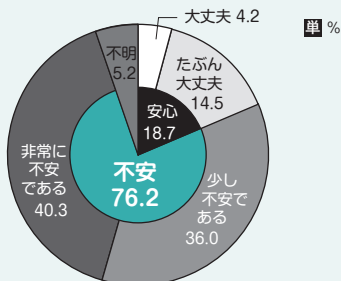
注 不安の内容は複数回答のうち上位5項目を抜粋。

調 (公財)生命保険文化センター「2022(令和4)年度 生活保障に関する調査」

7割強が「不安である」

世帯主が就労不能となった場合に必要な生活資金に対する、経済的備えについて不安に思っている人は、7割強となっています。また、世帯主が就労不能となった場合に必要な1ヵ月あたりの生活資金は、平均で29.4万円となっています。

DATA 2 世帯主が就労不能となった場合に必要な生活資金に対する経済的備えと必要な生活資金



注 病気やけがが原因で世帯主が就労不能となり、現在の収入が不安定(大幅な減額、喪失)となった場合の家族の生活費や住宅ローンの支払いなどの備えに対する意識と、必要と考える生活資金について尋ねた。

調 (公財)生命保険文化センター「2024(令和6)年度 生命保険に関する全国実態調査」